

奥会津、金山町の横田小学校に2年間勤務した。教員になり、最初に赴任したのが小学校だった。それ以来の小学校勤務だった。何となく感覚は残っていた。だが、立場が違った。

校長として赴任した初日は、挨拶に来てくださった地元の高校の校長先生から、名刺をいただけなかった。名刺は、私の隣にいた教頭先生に渡された。私は、どうやら教頭先生と思われたようだった。

毎朝、国道沿いの歩道を歩いて、徒歩通学の子どもたちを迎えに行った。子どもたちは、校長先生と歩いて登校する。これが、第一陣である。学校まで送り届けると、今度は反対方面の歩道をまた歩いて、子どもたちを迎えに行く。これが第二陣である。結構な距離を歩いた。

この学校では、半ば用務員さん兼校長先生というポジションだった。広く立派な校庭があった。残念ながら草が生える。そこで、ナンバープレートを外した車に乗り、校庭の整備作業を始める。その役目を担うのは校長である。地域の方も参加する5月の運動会の前などは、入念に整備をした。夏になると、草の勢いが増す。こちらも負けじと、車を走らせる。だんだんと楽しくなってくる。調子に乗って、校庭に図柄を描く。校舎の3階から、その出来栄を満足気に見る。

校長といえども、行事のたびに役割があった。最初から、数に入れられている。何をやればいいのか、ちゃんとレクチャーされる。こんなこともあった。冬になり雪が積もるようになる。プールにある建物の屋根の雪下ろしが職員総出の恒例行事だった。校舎からプールまでは距離がある。さすがに、冬の間は車を走らせないため、校庭にはかなりの積雪がある。どうやって、プールまで行くのかと思ったら、校長が先頭を切って進むのだという。納得はいかなかったが、雪に埋まりながら進むしかなかった。また、あるときは、町の公式キャラクターである「かぼまる」の中に入ったこともある。何かと、人使いがあらう学校だった。

冬は、校舎や校庭だけではない。自分が住む教員住宅も心配である。雪がここまで積もったら、必ず除雪をしてください。そうしないと、室内にガスが充満します。除雪は、必ず二人で行ってください。一人だと、万が一のときに、誰も助けに来てくれません。これが、大切な引き継ぎ事項だった。奥会津では、雪が一気に積もる。教員住宅の除雪作業、雪かたし、いや雪掘りは、かなりの重労働である。しかし、やらなければ生活していけない。車を出せない。

久しぶりに、横田小学校のホームページを見てみた。写真がたくさんあった。あの頃と、何も変わらなかった。子どもは少ないが、充実した教育内容である。子どもは、地域の宝として大切に育てられている。そのことがよくわかった。奥会津の小さな小さな小学校である。そこには、本当の教育があったように思う。わずか2年間だが、教育の原点のようなものに触れることができた。

思い出の横田小学校も、あと1年でなくなってしまう。閉校である。これで、私が勤務した学校が3つ閉校となる。時代の趨勢とはいえ、学校がなくなるのは、地域にとって大きい。学校がなくなっても、子どもたちの中に、卒業生の中に、地域に、そして私の中に、横田小学校はいつまでも残る。決して消えることはない。横田小学校は、そういう学校である。